

建築士 やまなし

No.63

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



①



⑥



②



③



④



⑤

■平成24年度 山梨県建築文化賞受賞作品

- ①山梨県立図書館〔公共〕（建築文化賞）
- ②中庭の家〔住宅〕（建築文化奨励賞）
- ③ポッポの家〔一般〕（建築文化奨励賞）
- ④小菅村体育館〔公共〕（建築文化奨励賞）
- ⑤地域と生きる家〔良好なまちなみ景観〕（建築文化奨励賞）
- ⑥大月の家〔良好なまちなみ景観〕（建築文化奨励賞）

●目次●

- 2. 年頭のご挨拶 一般社団法人 山梨県建築士会 会長 渡邊 正
- 3. (公社)日本建築士会連合会長表彰を授与されて 千野 幹雄・柳田 雅代
- 4. 支部だより(大月支部) 第47回 建築士会 親睦スポーツ大会
- 5. 青年部会の活動報告 渡辺 省三
- 6. 女性部会活動報告 遠藤 千春・一瀬 みなみ
- 7. まち再生への取り組み 和田 之男
- 8. 県からのお知らせ 山梨県建築住宅課
- 9. 平成24年度山梨県建築文化賞 一覧表 山梨県建築文化賞推進協議会
- 10. 事務局よりお知らせ 会員の動静 編集後記

年頭のご挨拶

一般社団法人 山梨県建築士会

会長 渡 邊 正



新年明けましておめでとうございます。

皆様に於かれましては、お健やかに新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年4月1日をもちまして、山梨県建築士会は全国で一番早く一般社団法人へ移行いたしました。「会計統合」「新定款の作成」と移行作業が順調に進めてこれたのは、会員皆様方のご理解ご協力があったお陰で改めて心より感謝申し上げます。

また、第55回建築士全国大会（いばらき大会）には、各支部、青年部、女性部の皆様方にご多用のなかご参加を戴き、大会が盛大に終了することができましたこと、ブロック会の会長として心より感謝申し上げます。

今も東日本大震災の余震は続いておりますが、昨年、私共に身近な東海地震を含めた「南海トラフ巨大地震」の想定震災域と首都直下型地震の二大地震が極めて高い確率で発生すると発表され、それに加えて本県では「富士山の噴火」についても危惧されております。これらの超巨大地震を乗り越え、被害を最小限に抑える鍵は、何より建築物の耐震化であり、その対応が急がれております。

建築と地震は、深い繋がりがあり、既存建築物の耐震補強事業など建築士が果たすべく役割は数多くあると思っております。また、消費者の方々は、建築士の力やアドバイスに期待を寄せております。

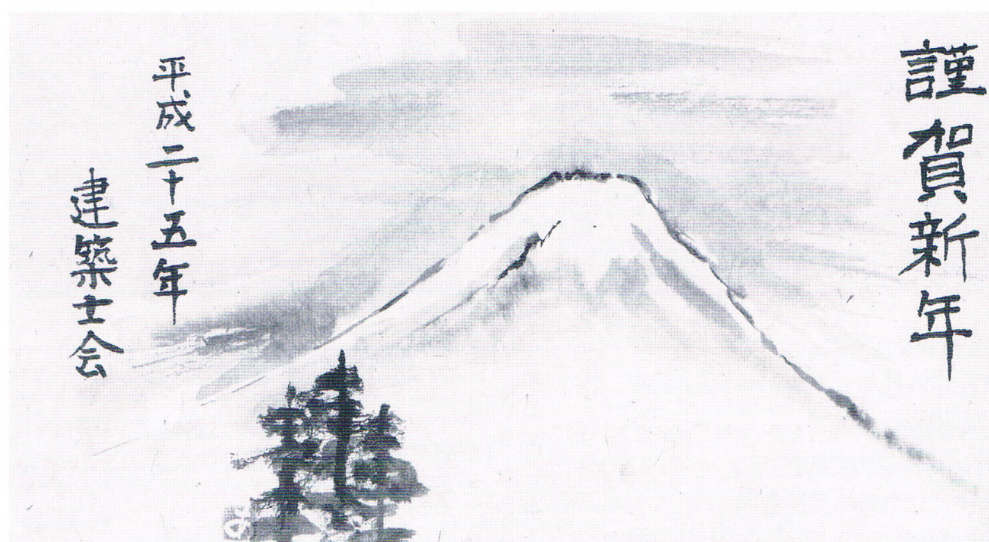
建築士会では、平成23年度より県、市町村と官民一体で木造住宅の耐震化への普及啓発と耐震補強工事のローラー作戦を行っており、今年度も引き続き消費者の力になるよう協力させていただきます。

また、国から「一級建築士のなりすまし」事件が発表されました。今般の事件は、一級建築士の資格を有する者の問題ではありませんが、厳格な国家試験に合格し誠実に業務を行っている建築士にとっては、まことに迷惑なことです。

姉園事件以降、消費者の建築士に対する目は厳しく、その信頼の回復はまだ道半ばです。

これからも社会の要請に応え、安全、安心なまちづくりの一翼を担う団体として、この難局を乗り切ってまいりたいと考えております。

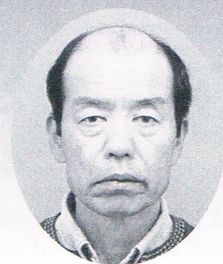
本年は、厳しい中にも充実した年となりますよう会員皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



(公社)日本建築士会連合会長表彰を授与されて

中巨摩支部

千 野 幹 雄



この度、第55回日本建築士会全国大会(いばらき大会)において、日本建築士会連合会長表彰を頂く事となり、身に余る光栄でございます。

会員諸先輩皆様方をはじめ、渡辺会長並びに関係各位のお導きの賜物であると、心から感謝申し上げます。

私事ではございますが、大会当日は所用があり、(いばらき大会)に出席する事ができませんでした。

顧みますと、先輩方の勧めにより、昭和49年に入会させて頂き、青年部会に所属しました。当時の活動で思い出深いのは青年部会の活動についてです。

既に関東甲信越ブロック会 単位会では、青年建築士会を立ち上げる動きがあり、山梨県に於いても、昭和52年に山梨県建築士青年部会を設立しました。

時を同じくして本県で関東甲信越ブロック会青年建築士協議会(山梨大会)が富士吉田市内で開催されました。

その後においても概ね10年毎に、各単位会持ち回りで実施され充実した協議会・研究集会を開催しています。

特に、昭和61年度関ブロック会青年建築士協議会山梨大会が甲府市内湯村温泉内で開催され、同年の全国大会

が開催される山口大会で全国研究集会のテーマ(3テーマ)について関東甲信越ブロック会の代表者選定するための論戦を展開した光景が目に見えます。

また、懇親会では、ワイン片手に語り合い、「武田節」の輪に加わったことは、楽しい思い出です。

大会資料中、関東甲信越建築士会ブロック会「創立50周年記念誌」を見ると当時単位会の青年建築士協議会で活躍した面々が単位会の幹部になっており、懐かしく拝見しました。

編集委員会委員のときは、県教育委員会からの編集依頼のあった「山梨の近代化遺産」を刊行、また、小池舜一先生監修の「山梨の地盤調査図」2・3刊を刊行しました。他にも建築士会員だからできる刊行物等を多数発行しました。

終わりに、本会の益々のご発展と会員各位のご多幸をお祈り申し上げます。



茨城県の県花：バラ(千野幹雄)

雲一つない秋晴れのもと、第55回創立60周年記念大会が10月19日大会テーマ常陸国で語ろう「60年の歩み」と「未来への創造」として茨城県水戸市県立県民文化センターに於いて開催されました。

オープニングアトラクションが、茨城県立大洗高等学校のマーチングバンドで始まり、大会アピールとして、

1. 災害に強い住宅、建築物、まちづくりを推進する
1. 全国の建築士同志が連携し、被災地の復興支援を推進する
1. 自律的監督体制の確立の下、社会的使命を遂行するを掲げ、次回開催県島根県建築士会に大会旗が引き渡されました。茨城県建築士会会員の皆様の熱い思いと心使いを感じる大会でありました。

その大会に於いて日本建築士連合会会長表彰をいただくことになり大変恐縮しております。私個人ではなく女性部

会の仲間と一緒にいただいたものと思っています。

私は、昭和44年建築士会に入会し、平成元年女性部会設立時初代部長をさせていただきました。その後、関ブロック女性協顧問、連合会女性委員会委員、本会に於いて編集委員、研修委員、資格審査委員、理事等多くの学びの場をいただきました。なかでも全国7ブロック最後の未成立であった関ブロック女性協議会設立に佐野前会長のご指導のもと携わらせていただいた事は、心に深く残っております。この様な研鑽の場をいただき、その上表彰をいただきました事は、これもひとえに渡辺会長様はじめ、歴代の会長様、各役員様、長きに渡り女性部会をご指導くださいました中家先生、いつもどんな時も親切に支えて下さった事務局の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。改めて厚く御礼を申し上げますと共に更なる本会の発展と会員各位のご多幸をお祈り申し上げます。



山梨県建築士会 理事

柳 田 雅 代

支部だより

第47回 建築士会親睦スポーツ大会を終えて

大月支部長 金子 憲一

8月25日(土) グランドゴルフ大会が、大月市営総合グラウンドで開催されました。

このグランドゴルフは、ちょうど10年前、私達大月支部よりはじまりました。

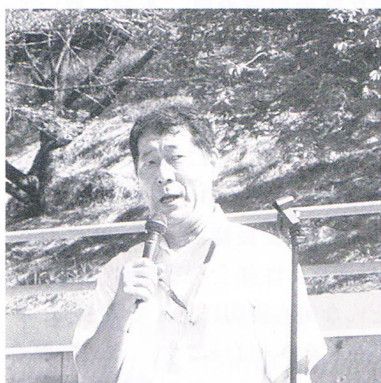
当時、グランドゴルフ自体を知らない会員が多かった為、企画・運営にはかなりの時間を費やし、大変であった記憶があります。

今回は支部会員が減少する中で、少しでも多くの皆さんの参加を求め、これを機会に大月支部を担っていく人材の啓蒙から始めようとの思いでスタートし、支部幹事会2回、実行委員会5回、スタッフ総勢38名の陣容で、

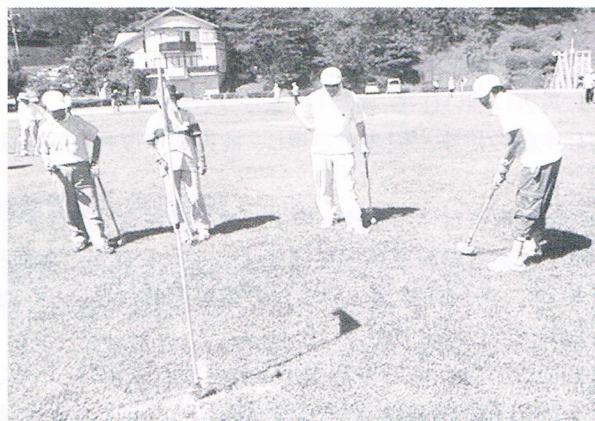
大会当日を迎えました。

晴れば、90%は成功すると確信!! 残り、駐車台数及び、ドクターヘリの発着等の問題がある為、注意喚起し阿吽の呼吸をはかった訳であります。

大会を通じ、支部長として大変嬉しかったことは、新しく士会の活動に参加する人が8名集まった事であります。今後、会員1人1人を大切に、大月支部を盛り上げていければ、スポーツ大会の意義があったのではないかと思います。昨今であります。



会長挨拶



建築士会全国大会（いばらき大会）に参加して

山梨県建築士会 青年部

渡 辺 省 三

10月19、20日と茨城県にて行われました建築士会全国大会に参加してきました。

昨年開催予定だった大阪大会が3月11日の東日本大震災の為、中止となり2年ぶりの開催となりました。

今回は大会本番の19日の前日に開催された「第3回全国建築士フォーラム」から参加させていただきました。タイトルを「災害から学ぶ建築士の役割～絆から復興へ～」とし第一部では福島県建築士会の“大桃一浩氏”による東日本大震災の被災当事者としての経験をお話いただく基調講演が行われました。実際に被災した建築士だからこそ分かる大変興味深いお話を伺うことが出来ました。

第2部では、各県で起こった様々な災害を体験した建築士会員をパネリストとして迎えたパネルディスカッションが行われました。こちらでは地震だけではなく豪雨による水害を受けた場合などの体験談などを聞くことが出来、非常に参考になりました。その後は懇親会となり多くの方々とお話をさせていただきました。

普段、関ブロなどで関東圏の方とはお話させて頂く機会はあるのですが、関東圏以外の方とこのような交流をする機会は今回が初めてでしたので

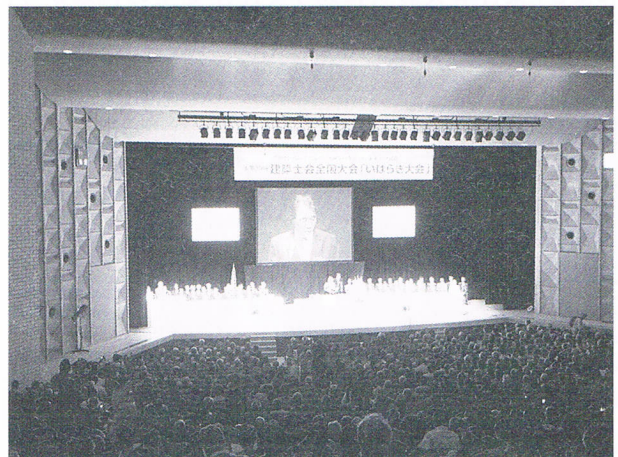
非常に良い経験をさせていただきました。

翌日の大会本番の19日後半からは自分の所属する都留支部の方々と合流し大会を満喫しました。そしてその晩は北茨城の磯原温泉の宿に宿泊したのですが、その宿は先の東日本大震災で津波被害に遭っていました。館内には被災当時の壮絶な状況から営業を再開するまでの過程を記した資料があり、津波被害の恐ろしさを少しですが感じる事が出来ました。

今回のいばらき大会は昨年起こった東日本大震災の被災県の一つである茨城県にて行われたということもあり、大会の内容及び様々な見学場所からも改めて震災の被害と復興の度合いを知ることが出来る貴重な大会でした。また災害時に建築士として自分に何ができるかと考えさせられる大会でもありました。

また全国大会のもう一つの魅力である建築、食などその土地の様々な文化もしっかり堪能してきました。

来年の全国大会は10月に島根県にて行われます。八百万の神々が出雲の国に集まる月“神在月”に開催される全国大会。考えただけでワクワクします。皆様、来年は神々の集まる地に是非一緒に私たちも集まりましょう！



女性部会の活動報告

「省エネ・スマートハウスについて」の勉強会に参加して 遠藤 千春

去る9月19日女性部会主催の「省エネ・スマートハウスについて」の勉強会に参加しました。

今年6月「やまなし節電エコ住宅促進モデル事業」の補助金申請を検討しようと考え、手続きを進めていたところ、選定していたHEMSが「充電量や放電量の制御を自動で行うシステム」に当たらないという理由で補助金対象にできませんでした。県の想定しているHEMSのシステムは、「蓄電量の制御または電力需要に充当する電源の選択を自動で行う機能を有する等、電力需要のピークカットに有効なシステム」というものだったのですが、メーカー各社に問合せをするとそのシステムや内容は様々で、調べるほどに、もう少し時間をかけたほうがいいのかということになり太陽光発電だけの選択となりました。

電気設備・機械設備等に疎い私には聞けば聞く程複雑で、難しいと思っていたところへの勉強会の案内だったのでどうしても説明を聞きたくて参加しました。

勉強会の2時間はあっという間でした。資料もわかりやすく、説明も慣れていて聞きやすいものでした。「スマートハウスには、確固たる定義は無い」と聞き、蓄電池やHEMSの機能がメーカーごとに整理された資料を確認

しながら、この資料をもとにまた少しずつ調べていけばなんとかなるかも…と本当に安直な人間だと思いつつ、肩の荷が下りたような感じがしました。

太陽光発電一つでも様々な選択肢があり、何がお施主様にとって最適なのかを決めることが難しいと感じています。「設備関係は不得意です」と言って避けて通れないのだと思うとまた肩の荷が重くなってしまいそうですが、少しでも苦手意識を払拭できるよう機会をとらえて、小さな情報や知識を身につけていくことが大切だと、今回の勉強会に参加して改めて感じましたし、本当に参加して良かったと思いました。良い機会をいただき、ありがとうございました。



第55回 建築士全国大会「いばらき大会」に参加して 一瀬 みなみ

10月19日に、建築士全国大会に 初めて参加させていただきました。

午前中の実践活動交流セッションでは、女性委員会による「東日本大震災に思う女性建築士の視線から」



東北3県(岩手、宮城、福島) 関東(茨城、栃木、千葉)の被災状況の報告と各県の活動報告を聞かせていただきました。

福島、仙台は、現地に見に行きましたし、テレビでも何度も放送されていたので、地震、津波、原発問題は把握しているつもりでしたが、千葉県に関しては、テレビであまり放送されなかったのか、私が見なかったのかは定かではないが、今回初めて、千葉県の液状化現象の写真や報告を聞かせていただいたことがとても印象的でした。

道路や歩道の陥没、道路の下にあるはずの、下水道配管や柵が道路より1m以上も上に、せり上がっていたり、住宅が傾くなどの、地震という天災のようでありながら、埋立地という立地条件の中での建設などは、人災のようでもあります。建築士として考えさせられる問題です。

まち再生への取り組み

和田 之男



平成23年4月25日午後7時半、大月商店街協同組合ホール（通称・大商協ホール）の1階会議室に大月商店街より2人、私を含め一般市民5人の計7人が顔を揃えた。

「街なか魅力再発見事業」部会は静かに、それでいて何かが起こりそうな予感を漂わせながら始まったのである。

この部会では街なかに埋もれた商品・商店や新しい観光スポットの魅力発見（掘り起こし）の為、大きく分けて二つ「散策マップ」と「標識・案内板」の作成を行い、来街者の回遊性を創出する事を目的とした。前回も書いたように「大月」と「大ツキ」の語呂合わせや、大月の名物である「大きな月」が見られる事から、「月」と「ツキ」を掛け合わせた「まん丸のツキ宿る Lucky City」で活性化、賑わいづくりを仕掛けようとしている。

散策マップでは次の6項目の内容を載せる事から始めた。

- 〈1〉駅から見える山並み（南側）
- 〈2〉大ツキ神社めぐり（大月の語源）
- 〈3〉清水場（都留の語源）
- 〈4〉ツキビューポイント（パワースポット）
- 〈5〉富士ビューポイント
- 〈6〉「大月」商品、メニュー

JR大月駅に降り立つと北に大きな一枚岩の「岩殿山」、南に「菊花山」が目に見え込む。岩殿山は山全体が要害の城で武田信玄の家臣、小山田氏の居城として難攻不落を誇った。菊花山は古代甲斐国の都留郡の名の由来として平安時代より伝わっている。

ぐるっと見渡せば四方を美しい山々が連なり、南西には霊峰富士がこの地に降り立つ人々を迎えてくれる。だが、この様な景色だけでは日本全国至るところに有るだろうし、これ以上の絶景な場所もたくさん有る事は分かっている。そこで私たちは山に関わる事項を掘り起こしてみる事から始めた。

まず岩殿山だが、平安時代に行基上人がこの山にこもって修行を積み、天台宗円通寺を開山、岩殿山周辺は門前町として賑わったそう。城跡には本丸、二の丸、三の丸、さらに蔵屋敷、兵舎、番所、物見台、馬屋のほか烽火台、馬場跡があり、この馬場跡の少し下の窪地に1,000年も前から水の湧き出る「亀が池」（※1）がある。また山頂西端にある「稚児落とし」の岸壁には悲しい物語も伝わっている。

南の菊花山（林宝山）は菊の花のような化石が出た事から名がついたとしか知っていなかったが、「甲斐国風土記」（奈良時代）には「かひの国のつるの郡に菊おひたる山あり、その山の谷より流る水、菊をあらふ。これによりて、その水を飲む人は、命ながくして、つるのごとし。よって郡のなとせり」（※2）と記されている。

この二つの資料を見ながら私は震えを押さえる事が出来なかった。単なる険しい山の「岩殿山」と都留の地名の由来の「菊花山」と思っていた二つの山が、今まさに一つの新しい神話の材料として存在していたのではない。（※1,2）

岩殿山の1,000年も前からこんこんと湧き出る「亀が池」と菊花山の「その山の谷より流る水、…その水を飲む人は、命ながくして、つるのごとし」。

気づきましたね、そうなんです「鶴（都留）」と「亀」が隠されていたのです。つまりこの地はまさに「長寿」と「繁栄」を象徴する土地だったのです。

もうひと工夫すると「学問の神様」の地でもあるのです。岩殿山は難攻不落の山城でした。つまり、難攻不落→落ちない→合格になるのではない。これが合格祈願の「大月グッツ」になること間違いなし、とこれはちょっと行き過ぎかもしれませんが。

さらに大月全体を俯瞰して見ると山々が大月を見守っている事が分かる。まずこの大月にはJR東日本が東西に走り、しかも6つの駅を持っている。その中心の大月駅には南北の山が「長寿」を象徴する事は先に書いた通りだが、北東の方向（表鬼門）には百蔵山（もくらさん）が在る。大月に伝わる桃太郎伝説、つまり猿橋の猿、鳥沢の鳥、犬目の犬と百蔵山の桃太郎が守っている事になる。そして南西の裏鬼門は

という霊峰富士が守っているではないか。ここまで来ると何やらパワーを感じてきませんか。

次に五つの神社を調べてみました。

大月のまち中には「三嶋神社」「神明神社」「北野天満宮」「大獄山那賀都神社」「天王神社」があり、それぞれありがたい神が祀られているのですが、これも普通に紹介するのではなく何か特色を持たせようと考えました。するとここでもある発見をしたのです。各神社が大月の中心商店街に向かって取り囲むように配置しているではないか。まさに各神社がそれぞれのパワーを中心商店街に向けて吹出していると同時に商店街から逃げ出そうとする運氣を取り囲みガードしている、そのように感じられたのです。つまりこの大月中心商店街に点在する特別な「場」=「パワースポットのまち」だったのです。

すると委員の一人がぼっとつぶやいた。「今、千年の沈黙を破り、大月の山々が静かに語りはじめる」これだ、委員のみんながマップ構成骨格が出来上がったと思った瞬間でした。

〈みくさのかむだから〉

私は「ツキ」と「パワースポット」で売り出すならば呪文を唱えようとも考えました。

そこで下記のような詩的文章をつくってみました。

題して「みくさのかむだから」

三種の神器と書き、鏡、剣、玉の三種の宝物です。

月の末裔人とも言い伝えられてきたこの地の人々は、事ある毎に三種の宝物（ほうもつ）に願いと希望を託してきたそうである。

大月市のほぼ中央にそびえる岩殿山はかつて小山田氏の居城として難攻不落を誇っていた。その一枚岩は「鏡」、御太刀の地名の由来ともなった大月駅北の古墳から出土した両刃の直刀を祀ったと言われる御太刀塚は「剣」、そしてもう一つ「宝珠・玉（ぎょく）」に願いを込めていた。

ところがこつ然と「玉」が消えた。

言い伝えではその玉がいくつかの小さな玉に分かれ、大月のまちの中に今でも潜んでいるそうである。

皆さんもこの「玉」を探し出し、三つのパワーを手に入れませんか。そこにあなたの「願い」が見えるかもしれません。

どんな人に巡り会えるのか 何に巡り会えるのか

この「まち」を巡りまわって

月に会う ツキに会う 新たな発見と喜び

そして私たちとゆっく「おつきあい」して下さい

この第二のふるさとで

「お帰りなさい」の言葉とともに

残念ながらこの呪文に関しては、マップ紙面の都合上縮尺型になってしまいましたが。

この他にもまだまだたくさんの調査事項があり、各委員が手分けして調べるという地道な作業が続いた事は言うまでもありません。「大月の町名の由来」「知る人ぞ知るコーナー」

「散策コース」「大月歳時記」など。

今回の散策マップづくりに際してたくさんのスケッチも描き、説明としてこの文章とともに載せたいと思ったのですが、この冊子のスペースも限られていますので、残念ながら割愛させて頂きました。

それより、興味の有る方は是非大月に寄って頂き、街歩きをして肌でその秘めたるパワーを感じて頂きたいと思います。それが本来のまち再生の取り組みになるのですから。

長々と書きましたが、これらは全て材料に過ぎません。ただ単に材料を並べ立てても誰も食してくれない。これをどう味付けし、どのように調理するかによってこの街「大月」の風味となってくるのです。

今回の街なか魅力再発見事業での散策マップは大月の賑わいづくりの「はじめの一步」にすぎないのです。大ツキ軽トラ市を含め今後も地元建築士として活動を続けてゆきたいと思います。いつの日かこのはじめの一步が大きな歩みに変わってくる事を信じて。

県からのお知らせ

山梨県建築住宅課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenchikujutaku/index.html>

1 応急危険度判定模擬訓練を行いました

11月29日(木)、南部町において、解体前の老朽化した木造平屋建て町営住宅を利用して、建物を傾けるなど、実際の判定活動に近い状況の中で、20名の方に参加して頂き、応急危険度判定の模擬訓練を行いました。

今後も、模擬訓練に利用できるよう、解体前の建築物があれば、同様の訓練を継続的に実施していきたいと考えております。開催に際しては、事前に県ホームページへの掲載や(一社)山梨県建築士会へ連絡するなどしますので、積極的なご参加をお願い致します。

2 木造住宅の耐震化に積極的なご協力をお願いします

東日本大震災以降、古い木造住宅の耐震化は、それまでに比べると、徐々に速度を増しながら進んでいますが、未だ補助制度等を利用した耐震改修工事は少ない状況にあります。本年度からは、耐震設計に対する補助制度を創設し、費用の面でもより利用しやすいものとしております。

古い木造住宅の所有者の方が、安全で安心して生活していけるよう、建築士の皆様におかれましては、補助制度を利用しての木造住宅の耐震化に積極的なご協力頂けますようお願い致します。

■木造住宅耐震改修設計支援事業補助金 : 補助率2/3 補助限度額20万円

3 都市の低炭素化の促進に関する法律の施行について

平成24年12月4日に都市の低炭素化の促進に関する法律が施行され、市街化区域等において、低炭素化のための建築物の普及・促進を図るための認定制度が始まりました。

これは、社会経済活動などにより発生する二酸化炭素の相当分が、都市において発生しているものであることから、都市における低炭素建築物の普及促進の措置を講ずることとしたものです。

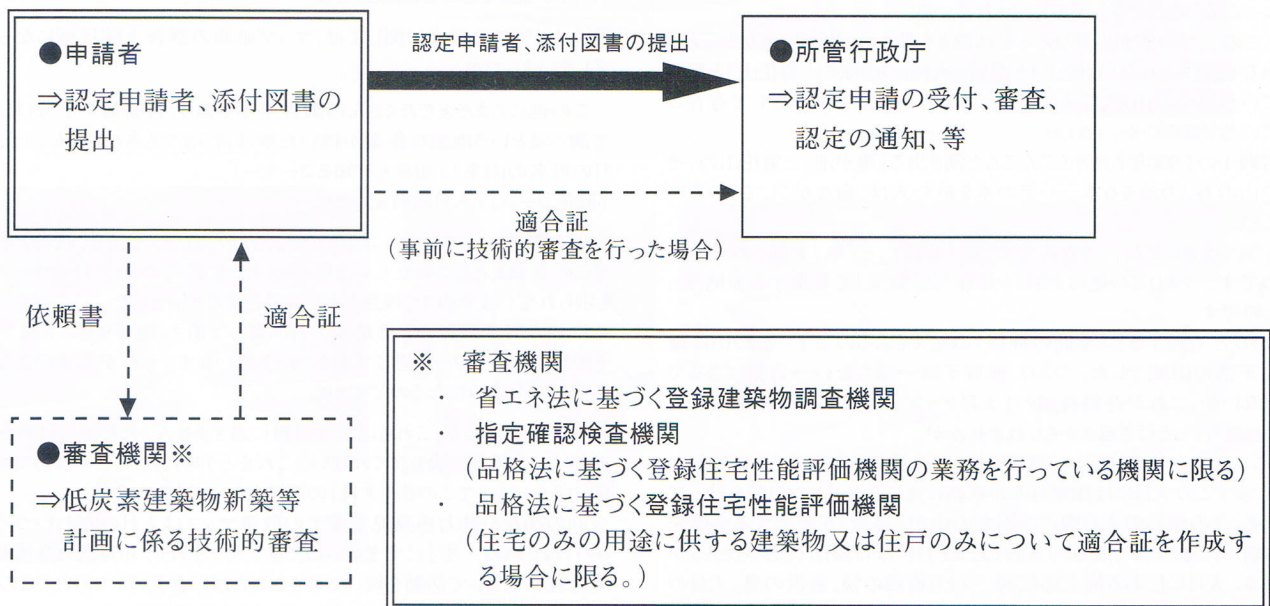
低炭素建築物新築等計画の認定を受けた場合は、住宅であれば税制上の優遇措置を、住宅以外の建築物は容積率の特例が受けられます。

認定を受けようとする方は、工事着手前に申請書を提出し、建築物の建築等に関する計画が認定の基準に適合しているかどうかの審査を受けていただくこととなります。

認定制度の趣旨をご理解いただき、低炭素建築物の普及の促進にご協力ください。

◇問い合わせ先 県建築住宅課建築審査担当 TEL 055-223-1735 FAX 055-223-1736

【手続きの流れ】



「山梨県立図書館」が建築文化賞に選ばれました

－24年度山梨県建築文化賞－

山梨県建築文化賞推進協議会

本年度山梨県建築文化賞に「山梨県立図書館」（甲府市）が選ばれました。

今回は住宅建築31点、一般建築物等24点、公共建築物等11点、計66点の応募の中から、建築文化賞1点、建築文化奨励賞5点が選出されました。

昨年11月9日にベルクラシック甲府において表彰式が行われ、横内知事から受賞作品の建築主、設計者、施工者に表彰状と記念品が贈られました。（県立図書館は設計者、施工者のみを表彰）

建築文化賞を受賞した「山梨県立図書館」は、図書館機能だけでなく、賑わいのためのイベント施設機能と観光拠点機能を併せ持った建物で、緑のルーバーや街路のような空間など、創造力にあふれている素晴らしい作品であると、東京工業大学名誉教授八木幸二審査委員長を始め、審査委員の方々に非常に高い評価を受けました。

これまでの受賞作品も含め、建築住宅課のホームページに掲載されていますので、是非御覧下さい。建築士会ホームページからもアクセスできます。

今後とも、本事業の推進に建築士皆様の御支援、御協力をお願い致します。

平成24年度【第23回 山梨県建築文化賞等表彰建築物一覧表】

（敬称略）

賞の名称	部 門	建築物の名称	所 在 地	建 築 物 の 概 要						建 築 主	設 計 者	施 工 者
				用 途	工事種別	構造	階数	高さ(m)	延べ面積(g)			
建 築 文 化 賞	公共建築物等	山梨県立図書館	甲州市北口	図書館	新築	S造・RC造・SRC造	地上4階地下1階	19.59	10,554.85	山梨県知事横内正明	久米設計・三宅建築設計事務所共同企業体	清水建設・早野組・国際建設 共同企業体 中橋電気・昌電社・小山電気 共同企業体 五光電工・滝田電気商会・西電機商会 共同企業体 三建設工業・大栄設備・渡辺工業所 共同企業体 甲府冷暖工業・富士冷暖・山田設備 共同企業体 ふじてん・エヌディエス共同企業体
	住宅建築	中庭の家	甲府市下飯田	一戸建ての住宅	新築	木造	地上2階	8.20	313.52	N氏	建築設計室アトリエ 風渡邊精一	有限会社 匠建築工房
建築文化奨励賞	一般建築物等	ポッポの家	南アルプス市荊沢	保育園	新築	木造	地上2階	9.38	490.21	社会福祉法人おひさま	Vent(ヴェン)計画設計室遠藤千春	日経工業 株式会社
	公共建築物等	小菅村体育館	北都留郡小菅村	体育館	新築	木造	地上2階	15.40	878.49	小菅村長 船木直美	疾測量株式会社 一級建築士事務所	長田組土木株式会社
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	地域と生きる家	甲府市上今井町	一戸建ての住宅	新築	木造	地上2階	7.20	111.21	雨宮愛子 山田武仁 山田洋美	株式会社 久間建築設計事務所 株式会社 ランドスケープ・プラス	株式会社 エムズアー、株式会社 富士グリーンテック
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	大月の家	大月市大月町	一戸建ての住宅	改築	木造	地上2階	8.90	439.59	渡辺克典	一級建築士事務所 有限会社 アルケド アティス	小坂工務店 小坂昭夫
	住宅建築	中庭の家	甲府市下飯田	一戸建ての住宅	新築	木造	地上2階	8.20	313.52	N氏	建築設計室アトリエ 風渡邊精一	有限会社 匠建築工房

【山梨県建築文化賞の応募・受賞件数（第1回～第23回）】

住宅建築の部門			一般建築物等の部門			公共建築物等の部門			良好なまちなみ景観を形成している建築物等の部門			計			
文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	部門別受賞数	文化賞	奨励賞	特別賞	応募数
7	28	756	11	26	742	17	20	620	6	28	住宅10 一般23 公共1	41	102	1	2,134
35			37			37			34						
											16		144		

※・第1回、第2回は、一般建築物等、公共建築物等、良好なまちなみ景観を形成している建築物等の3部門で募集。

（住宅建築は一般建築物等に含まれた）

・第3回からは住宅建築、一般建築物等、公共建築物等の3部門で募集。良好なまちなみ景観を形成している建築物等については3部門から賞の主旨にかなうものを審査委員会の審査により選出。

・第17回からは、国、県の建築物についても表彰対象となる。